

## (8)環境と調和したライフスタイル

- ・ 市町村のきめの細かい分別収集に応じて、ごみの素材等の種類に従った分別排出が一般化する。また、こうして収集されたごみのうち容器包装廃棄物は事業者のリサイクル責任に基づき、再生利用されるようになる。
- ・ ほとんどすべてのごみが再使用、再生利用、熱回収を伴う焼却処理のいずれかで処理される「ごみゼロ社会」が構築される。
- ・ CO<sub>2</sub>の排出量の抑制等のため、室温を適切に調整したり、公共交通機関をなるべく利用するなど、省エネに向けたライフスタイルが確立される。
- ・ 環境教育が学校や地域社会で実施される。

### ある子育て世代のくらしのイメージ

- ・ 住んでいる市では7種類に分けた分別収集が行われている。分解、分別しやすい商品も増えてきている。また、再生品が多く流通しており、利用することが多くなった。
- ・ ごみの従量によって処理手数料が課せられるようになってから、なるべく簡易包装等ごみにならない商品を購入するようにしている。このため排出するごみが減った。
- ・ ごみ処理の費用のかかる製品については処理費用が価格に上乗せされているので、毎日の消費生活の中で、ごみ処理について関心が高まった。
- ・ 省エネのため、冷暖房の温度を1℃調整している。
- ・ マンション居住者の電力消費のかなりの部分を屋上に設置した太陽光発電によって賄っている。

## 壮年世代のくらしのビジョン

### (1)就業

- ・ 産業構造の変化等による労働移動の増加、年功序列賃金制度の変化、能力重視の待遇条件の設定などにより、個人の能力を高めることが問われるようになる。また、新規産業の開拓と相まって、自己の能力を高めた者の適職選択の幅が広がる。
- ・ このように個人の能力や仕事への貢献度の評価の重視等によって、昇給したり、より良い労働条件を提示する企業への転職等ができるようになるため、夜間大学への入学等、壮年世代が早期からの自己啓発や能力開発に取り組むようになる。
- ・ 情報通信ネットワークを活用して、在宅勤務が可能となり、自分の裁量で働くことができるようになる。また、通勤負担が軽減される。
- ・ 就業形態の多様化、介護休業制度の普及、在宅ケアの充実等により、在宅介護をする場合でも介護と就業を両立できるようになる。

### ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 夫は中間管理職から専門職に転換し、給与体系は年俸制となり基本給はやや低下したが、今年の仕事は高い評価を受けているので、来年の年俸は2割増となる。
- ・ 妻は、民間の研究機関の正規の職員として働いているが、データ処理・分析が中心なので、実際の仕事はほとんど家庭内で情報通信ネットワークを利用して作業している。週1回のミーティングで都心に出勤するのが楽しみとなっている。
- ・ 夫の父親が脳梗塞で要介護状態となった。退院後のリハビリ等について地域の在宅介護支援センターで相談したところ毎日利用できる在宅サービスを利用して在宅で介護することにした。当面、夫は3か月の介護休業を取得することにした。

## (2)所得・消費・貯蓄・資産

- ・ 建設コストの低減、定期借地権付き物件の増加等により住宅の低価格化が進み、併せて、中古住宅流通市場も整備され、良質な中古住宅を適正な価格で入手可能となり、住宅関係費の負担が軽減される。
- ・ 個性ある能力の重視、学歴社会の是正、人生の特定の時期に集中した教育投資意識の見直しなどにより、子どもに過度な教育費をかけることがなくなる。また、高度な科学技術の研究などに対する研究助成や奨学金の充実により、家計の教育費負担が軽減する。
- ・ これらの結果、所得を文化、スポーツ、観光、レクリエーション等を通じた自己実現や、高齢期に備えた貯蓄など、壮年世代の自己のために使うようになる。
- ・ 内外価格差の是正・縮小により、安い商品が手に入るようになり、生活が一層楽になる。一方、消費者にも商品の善し悪しを判断する力が求められるようになる。

### ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 名目所得は大きく伸びることは期待できなくなった。しかし、基本的な生活用品は内外価格差がほとんどなくなり、生活に余裕がでた。
- ・ 住宅が定期借地権付きの住宅であることや、理工技術系の大学院に通っている長男は奨学金や研究助成を受けていることなどから、過重な住宅ローンや教育費負担といった大口の家計支出はない。
- ・ 将来の貯蓄、資産をどのように運用したらよいか、金融機関にアドバイスを受けた。高齢期のくらしに備え、私的年金等に加入しているが、公的な年金や介護保険などと合わせて生活設計を考えているので不安はない。

## (3)住まい

- ・ 周辺環境にも優れた良質な賃貸住宅の供給により都心居住が可能になり、通勤時間が短縮され、家族で過ごす時間が増える。また、時差通勤制、フレックスタイム制の導入等により通勤混雑も緩和される。
- ・ 高い耐久性を持ち、またライフステージに合わせて間仕切り等を変更することが可能な良質中古住宅の流通市場が整備され、子どもの成長に伴って部屋数の多い家へ住み替えることが容易になる。
- ・ 高齢期を控えて、住宅をバリアフリー化したり、バリアフリー化されている中古住宅を取得することが一般化する。
- ・ 交通網の整備により、どこに住んでも便利で豊かな生活が可能になる。

### ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 子供が小さい時期は都心の賃貸マンションに住んでいたが、現在は老親の戸建て住宅の近隣に定期借地権付きの住宅を購入し、居住している。交通網が整備されて、都心などに行くのも便利になった。
- ・ 親の住居はバリアフリー化するなど、高規格に建て直してある（低利の融資、公的な補助を受けた）。親の住居はリバースモーゲージ制度を利用しているので、親の死亡後、売却することになっている。

#### (4)健康・医療・介護等

- ・ 情報通信ネットワークや医療機器等を活用して、健康カードによる予防医療・保健サービスを効率的に受けることができるようになり、成人病などの防止、高齢期の発症率の低下につながる。予防医療等を充実し、病院や市町村保健センターなどで気軽に健康診断や食事等の生活指導を受けられるようになる。
- ・ 労働時間の短縮などによる自由時間を活用して、スポーツクラブ等で体力づくりをする人が増える。
- ・ 家庭で介護を行う場合には、介護技術の研修に参加することが一般的になり、肉体的な負担の軽い介護ができるようになるとともに、要介護者の健康や快適さも向上する。
- ・ 在宅や施設の介護サービスに係る負担については、公的介護保険によって、高齢者も含めた社会全体で負担するようになり、家族の負担が軽減される。

##### ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 自分自身の健康管理は定期的にチェックすることにしている。パソコンネットワークで健康カードのデータを渡し、在宅で医師の判断を仰ぐことができる。
- ・ 地域のスポーツクラブで体力づくりのデータも、この健康カードと統一的に管理して、トレーニングメニューをインストラクターに相談している。
- ・ 軽い疾病については近隣の診療所をホームドクターとして利用しており、もし高度な医療技術を必要とすることになっても、医療機関間のネットワークを利用して効率的に大学病院などの診療を受けられる。
- ・ 近くに住んでいる老親が要介護状態になったが、従来から地域や職場での介護技術の講習を受けていたことや、住宅を既にバリアフリー化していたので家庭内での介助は物理的には苦にならない。また、毎日在宅介護サービスを受けられる。
- ・ 自家用車も介護仕様になっているワゴン車に買い換えた（特別仕様による超過費用は公的な補助が受けられた）。交通機関を利用した場合でも、交通ターミナルを含めバリアフリーのまちづくりが進んでおり楽に動けるようになった。

#### (5)学習・教育（自己啓発）

- ・ 大学等における公開講座や社会人入学の枠が広がり、社会人学生が増加する。また、公共機関等や民間教育産業等の提供する講座も多くなる。これにより、高齢期を見据えた職業能力開発やその他社会参加のための生涯学習が盛んになり、就労のみならず様々な社会活動が可能になる。

##### ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 労働時間の短縮やフレックスタイム制によって、自由になる時間が増えた。週2回は大学の公開講座で日本の古代文学を研究することになっている。
- ・ コンピュータ等情報機器を使用する際は、機械を意識しないで音声入出力、手書き入力等簡単に操作できるようになった。

#### (6)余暇・社会参加

- ・ 長期休暇が普及し、リゾート地への長期滞在、短期留学等、様々な過ごし方が選択されるようになる。
- ・ 地域活動やボランティア活動にも参加するようになり、地域とのつながりが保てるようになる。
- ・ 身近な自然から遠隔地のすぐれた自然まで、多様な自然とふれあうことのできる機会が確保される。

##### ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 夫は来年はチベット仏教を体験したいとして、3か月のリフレッシュ休暇を取る予定だ。
- ・ ボランティア休暇を利用して、国立公園で自然保護ボランティアとして活躍したり、休暇に夫婦そろって、自然歩道を歩き、地域の自然にふれあい、心身のリフレッシュを図る。

(7)災害への備え

- ・ 住宅・社会資本等の耐震性の強化が進み、地震が発生した場合の被害の軽減が図られる。また、水害、がけ崩れ等への対策が進む。
- ・ 地震保険への加入率が高まる等、個人レベルでの地震への備えが進む。
- ・ 災害時に備えたボランティア団体の組織化、ネットワーク化が進み、これにより地域住民間の連携も深まる。

ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 住宅はバリアフリー化と同時に耐震性能も高いものにした。一部の仕様については公的補助をうけたのであまり費用は掛からなかった。
- ・ 親の住宅は地震保険に加入した。保障限度額も引き上げられている。
- ・ 災害時に備えた訓練は学校での訓練と一緒に地域ぐるみで年2回行っている。

(8)環境と調和したライフスタイル

- ・ 市町村のきめの細かい分別収集に応じて、ごみの素材等の種類に従った分別排出が一般化する。また、こうして収集されたごみのうち容器包装廃棄物は事業者のリサイクル責任に基づき、再生利用されるようになる。
- ・ ほとんどすべてのごみが再使用、再生利用、熱回収を伴う焼却処理のいずれかで処理される「ごみゼロ社会」が構築される。
- ・ CO<sub>2</sub>の排出量の抑制等のため、室温を適切に調整したり、公共交通機関をなるべく利用するなど、省エネに向けたライフスタイルが確立される。
- ・ 環境教育が学校や地域社会で実施される。

ある壮年世代のくらしのイメージ

- ・ 住んでいる市では7種類に分けた分別収集が行われている。分解、分別しやすい商品も増えてきており、きめの細かいごみ出しができる。また、再生品が多く流通しており、利用することが多くなった。
- ・ ごみの従量によって処理手数料が課せられるようになってから、なるべく簡易包装等ごみにならない商品を購入するようにしている。このため排出するごみが減った。
- ・ ごみ処理の費用のかかる製品については処理費用が価格に上乘せされているので、毎日の消費生活の中で、ごみ処理について関心が高まった。
- ・ 省エネのため冷暖房の温度を1℃調整している。
- ・ 住宅の断熱化や太陽光発電を利用する者が増えてきており、価格も手頃になったので、住宅の改築に際して設置した。